

雑木林応援隊 活動報告

「初夏の森の保全活動について」

北寺 雄一

牛久自然観察の森ネイチャーセンター横の単箱から、フクロウのヒナが巣立ちを待つ頃、私たちは梅林横の森の保全活動を実施しました。今回は伐採が必要となるため、市への届け出を済ませ、許可が下りてからの実施となりました。

2班に分かれて森全体のバランスを見ながら、対象の立木にマーキングを行い伐採しました。対象となった樹木はスギが殆どでしたが、作業中にヒノキとサワラの見分け方について話題となり（私は魚の鱗以外知りませんでした）、葉の先端の尖り具合や葉の裏の気孔（白い模様）で判断する事を教えて頂き大変勉強になりました。また、森の中には色々な山野草が自生しており、一例ですが、葉の中央に花が咲く「ハナイカダ」や、黄色い花の「キンラン」、ユリ科の「ホウチャクソウ」など、それらの植物についても会の方々から説明して頂きました。（説明を受けてから植物を踏みつけはしないかと、気が気ではありませんでした）

伐採した樹木は、老朽化した葡萄棚の建替えに利



用しました。設計図を基に木材を用途別（支柱・補強材等）に選別後、皮剥ぎ・防腐処理を経ていよいよ組立です。組立は本格的で、それぞれの方が得意分野を担当してワイワイ楽しく作業を行いました。

私は入会して1年が経ち、入会当時は不安な気持ちで一杯でしたが、心配をよそに、会の方々がマイルドで四季を通して新しい知識を得ることもでき、森に関わる活動の楽しさをあらためて実感した次第です。

一般投稿

「初夏の森の保全アメリカ（インディアナ州）で出会った生き物たち」

前田 直之

昨年4月より仕事でアメリカのインディアナ州にきています。私が今住んでいるところは都心ではありませんので、周囲に自然がたくさんあります。アパートメントでは木がたくさん植えられており、ちょっとした森になっているところも多々ありますし、少し足を伸ばせば州立公園があり非常に広大な森林が広がっています。

アメリカでは日本のように気候ではっきりとした四季を感じることはありませんが、出会う生き物たちの変化で季節の移り変わりを感ずることが出来ます。写真はわたしがこちらに来てから撮影した1部です。詳細に名前や種類を確認できておりませんが、日本でも同じ種類のものを見られるものもいます。リス、鹿、アライグマなどは日本における猫、犬、たぬきといったポジションでしょうか。非常に良く見かけます。（よく路上に横たわって見かけます）

昆虫類は日本のよりもたくましい印象を受けます。蛭もいます。写真を撮れてはいませんが、清流がな

いと生きられないというのではなく普通にいます。アパートの外を日本の蛭よりも明るくはっきりと光りながら飛んでいます。今年はどうにか写真撮りたいです。もう少しこちらに居る予定です。まだまだ訪れていない場所が多々あるので時間があるとき訪れて、まだ出合っていない生き物たちと触れ合えればと思っています。では。



樹上で活動するリス（アメリカ合衆国インディアナ州）

さとやま 2017年 夏号（通巻139号）

■発行 特定非営利活動法人うしく里山の会
〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
tel 029-873-8552 fax029-873-8552

■事務局 牛久自然観察の森内
tel 029-874-6600 fax029-874-6812
http://ushiku-satoyama.org/
■編集 木谷昌史

さとやま

特定非営利活動法人うしく里山の会 広報誌 No.139

1. 表紙（写真：樹液に集まる昆虫達）
2. 市内で確認される特定外来生物
3. お知らせ
- 4~8 プロジェクトからの活動報告
会員投稿
8. 裏表紙（写真：オオカマキリ）



①オオカワヂシャの群生（平成28年7月10日 桂川第3桂橋下流 戸塚）
 ②オオカワヂシャの花（平成29年4月17日 桂川第3桂橋下流 戸塚）

外来植物リサーチ

特定外来生物2 オオカワヂシャ ……高野 美栄子

ヨーロッパ～アジア北部原産。日本への侵入時期は不明であるが、1927年以前に入ったようである。現在では本州・四国・九州に広がっており、特定外来生物に指定されている。牛久市では最近、川岸（写真）、排水路、溝地などで目立ってきている。

ゴマノハグサ科（DNA分類ではオオバコ科）クワガタソウ属。この属には全国で40種近くあり、牛久では在来種のイヌノフグリ（希少種）・カワヂシャ（希少種、環境省指定準絶滅危惧）・ムシクサ、外来種のオオイヌノフグリ・タチイヌノフグリ・フラサバソウがある。越年草または多年草で、主に湿地や水辺に生育する。種子による繁殖の他、地中を横走る根茎から茎を出し、増殖する。全体無毛。茎は高さ0.3～1m。葉は長楕円形からひ針形、縁に細かい鋸歯があ

るが、目立たず全縁に見え、無柄で対生する。茎上部の葉は基部がハート形になって茎を抱く。春から夏にかけて葉腋に穂状の花序を出し、直径5mmほどの淡紫色～白色の4深裂の花（枠内の写真）を多数つける。果実は球形、先端が凹み、長さ3mmほどで花柱が残るのが特徴である。

特定外来生物に指定された背景として、各地の河川を中心に大繁殖し、上述の準絶滅危惧種であるカワヂシャと競合し駆逐している他、交雑し雑種を形成して遺伝子汚染を引き起こしている実態がある。そして、オオカワヂシャと雑種ホナガカワヂシャの各地の駆除活動がネット上に報じられている。牛久市内でも将来、このような現象が起きないよう事前の調査や注意が必要である。

お知らせ

クラフトプロジェクトメンバー募集……（クラフトプロジェクト）

クラフトプロジェクトでは現在活動メンバーを募集しています。子供向けの木製玩具の創作やクラフトマーケットでの工作教室、またその準備を行っています。見学可ですので、是非一度遊びに来てください。

活動日 毎月第1・3（金曜日・日曜日）
 時間 午前9時～午後4時（都合の付く日時でOKです）
 場所 牛久市福祉センター内創造の家（工作室）
 費用 会員：無料 一般参加者：2,000円/年
 申・問 FAX：0297-64-6523 携帯：090-3591-4481（千葉）



活動の様子（福祉センター：創造の家） クラフト教室の様子（福祉センター：創造の家）

結束町みどりの保全区

「エコアップ」作戦参加者募集のお知らせ……木谷昌史

牛久自然観察の森に隣接する牛久市結束町の「みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。

活動日時
 9月5日（火）9：00～11：00 10日（日）9：00～11：00
 10月3日（火）9：00～11：00 8日（日）9：00～11：00
 11月7日（火）9：00～11：00 12日（日）9：00～11：00

集合場所 牛久自然観察の森ネイチャーセンター1階倉庫前
 予約 不要／荒天時は中止
 持ち物 長靴 軍手 長袖 長ズボン ※刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ
 問い合わせ先 029-874-6600（担当木谷）

クラフトプロジェクト 「親子おもちゃ作り教室」

三浦 昭十七

クラフトプロジェクトは発足以来森ネイチャーセンターの地下室のような倉庫を活動場所としてきました。冬は底冷えする寒さに、夏は材料がカビるほどの高温多湿、そして蚊。さらに作業スペースの問題や音の問題と活動メンバーが増える一方で、作業や材料の保管には課題の多い環境でした。みかねた森のスタッフのお骨おりで昨年11月から牛久市総合福祉センター創作活動室が利用出来る様になり最悪の作業環境は全て改善。関係者や市民へ感謝の意味を込めおもちゃ作り教室を開催することとしました。

【5月28日午後1時～3時】

テーマ：自由な色塗りとお絵かき・組立が簡単な引き車。
当日集合した参加者：5家族17名 制作した引き車：6台

1人のお子様に3世代5人の家族やお孫さんへのプレゼントにとご夫婦の参加もありました。

工作が始まると子供達は真剣な眼差しで自由奔放に色塗りやお絵かきをどんどん進めてゆきます。プロジェクトメンバーは適切で控えめなアドバイス。パパやママは楽しそうな笑顔で見守りとお手伝い。子供たちも完成に近づくと笑顔が次々にはじけて来ます。完成するとすぐに舟やバスの引き車を引いて広い室内を走り回りご家族と一緒に喜びの歓声が沸きます。我々スタッフは安堵感と充実感。

ご参加頂いた皆様有難うございました。お子様やお孫さまの健やかな成長をお祈りいたしております。



引き車を制作する親子（福祉センター 平成29年5月28日）

牛久自然観察の森指定管理者 「木育体験事業報告」

丸山 淳子

休日になるとネイチャーセンターの木育ひろば「うっしし」は3世代が集い、大変賑わっています。

6月にはこの木育事業関連で2つのイベントを観察の森で開催しました。1つ目は昨年度、木工コンテストプロジェクトによる「三世代が笑って遊べる木のおもちゃコンテスト」卓上部門優秀作品賞に輝いた群馬県「つみ木堂」松本将利さんがゲストで11日（日）「つみ木堂がやってくる」というタイトルで開催、内容はネイチャーセンター前にてブナ材を使用した積み木等を広げ自由に遊ぶ場を設置し、オリジナル木製ゴム鉄砲での的あてゲーム、クラフト体験、木の雑貨販売を行いました。当日は晴天のもと、たくさんの家族連れで賑わいました。

2つ目は知育、木のおもちゃをインターネット販売している「SoundGiftShop 音賜（おんたま）」三浦ちよ子さんを講師に木製の「百玉そろばん作り」を25日（日）に開催しました。講師はひろばのおもちゃ購入をきっかけに知り合った方です。幼児とその保護者を対象に製作したキットを使い、組み立て作業と色塗りの作業を体験し完成させました。今回参加してくれた方は観察の森にはじめて来た方が多数でしたので、今までの木工体験とは違う新たな企画だったのではないのでしょうか。今後もひろばを通して知り合った方の力をお借りし、来園者にとって魅力的な場所になるよう一層努める所存です。



積み木で遊ぶ子供たちの様子（牛久自然観察の森 平成29年6月11日）

自然観察出前講座

「自然観察出前講座の今年度前半における活動状況について」

平塚 芳雄

平成29年4月から同7月において実施した主な活動である下記3件の観察会等の実施状況について報告します。

(1) 春の野草観察会

平成29年5月2日（日）、春の野草観察会を実施しました。場所は牛久市観光アヤメ園、天候は晴れ、気温は暑からず寒からず。参加者は公募した市民9名（男子3、女子6）、当方2名の計11名。予定の午前10時から石神園長の案内で観察会を開始、駐車場の南に接する道路際の草原から。特に今回は今が花の時のカラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサの見分け方について資料も用意し実物を基に詳しく解説しました。

足を延ばして、カップの小径に近いタニギキョウが群生している所も見学。ここはボランティア団体が定期的に管理活動を行い良く整備されていて、花の盛りは過ぎていたが、アマドコロ等と共に小さいながらも多くの花を付けた株を見ることができました。

今回の観察コースは三方が緑の斜面林と田植えを控えた水田、一方が牛久沼という里山景観の地。新緑眩しい落葉樹、深い緑の常緑樹が織りなす斜面林の景観、斜面林に包まれ広がる田んぼは既に田植えの準備、田起し、代かきがされ水が張られていました。トラクターも動き田植えの準備、春の田んぼの風景が広がっていました。

この出前講座では毎回、単なる野草の話だけではなく石神園長の生態系に関わる話があり、今回も地球上の生物は生産者、消費者、分解者からなり、そのバランスにより成り立っているとの話が有りました。午前11時30分、再び駐車場に戻り、無事に楽しく観察会を終えることが出来ました。

(2) 向台小学校5年生の田植え支援活動

毎年恒例の向台小学校5年生の体験事業として行われる「田植え」を5月12日（金）に支援実施しました。暫く雨が降らず田植えができるかどうか心配でしたが、田植え予定日の二日前になり、やっと雨が降り、急遽、前日の11日に石神園長他植生管理ボランティアメンバー3名、田圃の元の持ち主の鈴木さんの5名で田起こし、代かきを行い準備しました。

当日は晴れ午前9時から始まる田植えに備え、使用する道具類



タニギキョウの観察場所

を準備、手筈を相談。例年田植えは3組、百数十名の五年生を1組から順番に行っていましたが、今年は、1組は上の田んぼ、2組は下の田んぼと分かれ並行して行い、約1時間で田植え作業を終えることができました。

この活動は今年で7年間続けられており、春の田植え、夏の草取り、秋の稲刈りの一連の米作り体験を通じて、自然の恵みを受け、汗をかき苦労して米作りすることによって初めて御飯が食べられることを実感してもらうことを目的としています。1人5～6株を植えるだけですが、ほぼ全員が素足で田圃に入り、足を取られ、倒れそうになりながら苦労して行ったこの体験は本人たちにとって貴重な楽しい体験になったと思います。

(3) 牛久第二幼稚園への出前講座「生き物探し」

平成29年7月6日（木）午前9時30分～同10時30分、牛久沼隣接の牛久市観光アヤメ園内で出前講座を実施しました。テーマは「生き物探し」。毎年恒例の野外活動です。参加者は19組の園児母子と先生4人。案内役は石神園長、小松さん、三浦さん。記録係として私。総勢45人での活動。活動開始に備えて、見本とする生き物の準備、既に三浦さんがドジョウ、メダカ、タニシ、アメリカザリガニなどを捕獲してくれていたのだからそれらをプラスチックの容器に移し、種名を確認。モノアライガイ、アマガエル、バッタ等を捕獲し追加。駐車場の一角、斜面林下の木陰に集まり、石神園長のお話と注意事項の伝達、今話題になっているヒアリ、セアカドクグモも写真を使って解説。9時30分から3組に分かれて活動開始。案内人から虫や小魚を捕まえる手ほどき、生き物捕獲の方法には待ち伏せ型と追い込み型があること。生態を知ること大切、どんなところに居るのか⇒餌のある所に（チョウであれば花のある所）等々。

今回の活動は捕まえたものの数や大きさではなく、成功したり失敗したりの実験が大切。チョウに逃げられた子もいたがこれも貴重な体験。暑さの中の野外活動なので捕獲活動は10時20分頃終了。集合、お話の後、捕獲した生き物をプラスチックのバケツに戻す。持ち帰ってもその生き物を生かしておくことが難しいため。悲しくて涙を流す子も。午前10時30分過ぎには無事に解散しました。



生き物探しの一コマ

梅雨前線が居座り九州で大きな被害が出ている、牛久では梅雨とはいえ蒸し暑い夏日が続いている。

先日の8日にジャガイモの半分を掘り上げた。子供たちの用事や体調などで全員がそろそろ機会は少ないが作物の植え付けも一段落して楽しく実施している。

去年は梅の収穫が少なく全部で2kg 余りしか収穫できなかった、今年はどうかと3月ごろから心配であった、雌しべがしっかりしていると実をつけるとあったので花の季節から花びらに顔を近づけてみていた。昨年、枝ぶりは寂しいが一番実をつけていた木をみたが雄しべと雌しべの違いがハッキリしない。森からの帰りにはあちこちの花びらを見ていた、梅林に中ほど、通路脇の木にピンと起立した雌しべをもった木があった。他にも2本程の木を見つけ楽しみにしていた。

梅林を歩いてわかるように幹に空洞ができそれが裂け、老木のような様子である。雑木林応援隊ではわが身を案ずるがごとく取り付け、もう少し頑張ろうね、と心で声を掛け養生をしている。観察の森が開園する前に駅近くの梅林から移植されたと聞く、樹齢何年であったかわからないが、開園から27年、梅の実の生産農家では30年という、世代交代の時期でもある、実生の幼木に添え木をたてて植え付けている。駐車場側と炭小屋近くの林縁に紅梅が2本ある、紅梅も植え付けたいと実のなるのをまだまだかと待っていた、見落としていないかと時期が過ぎても木の下を探していたが梅の実は見つからなかった、桃栗3年・・・梅13年と言われているが、私は見ることができないが次の人のためにも何とか実生の紅梅を植え付けておきたい。

5月も半ばを過ぎ炭小屋近くには実を付けた木々が見られる、雌しべがしっかりした木には

ポツポツとみられる程度、いつかワツと驚くほどに思っていたが変わることなくポツポツであった、私が聞いていた雌しべがと信じていたのは何であったのか。養分なのか日当たりなのか毎年実のなる木は決まっているようである。来年忘れないでいたらもう一度気を付けてみてみようと思う。

今年是一家族2KG ほど持って帰ることができた、梅ジュースを作った、同量の砂糖を入れ、今年は無糖なグラニュー糖で作った、梅がしおれ始めてきたので薄めて飲んでみた、渋み苦味がある、飲めないことはないが、作る時にアク抜きをしなかった。家人は知らない顔でいる、せつせと一人で飲んでいたら糖尿病になるのではないかと心配である、物入れを開けるたびにどうしたものかと頭を痛めている。

さて、次回は収穫祭、皆で相談したら、じゃがバター、じゃがいもピザそして鍋と話になった、夏にジャガイモを使った簡単な鍋？、クックパットに聞いてみよう。薪で火をおこし始める、子供達には森の中から杉の葉を集めて来てもらおう。



梅取りの様子

今年の6月は梅雨にもかかわらず天候に恵まれ、計画通り次の三回植物の観察調査ができました。

【6月11日(日)】

牛久中央図書館前の雌木のニワウルシ(中国原産、ニガキ科)の花を観察の後、車で移動して愛和病院裏にある、猪子町の下草管理がなされている雑木林約0.2ha 範囲の調査をしました。適度に日が差し込み、地面にも適度な落葉があり、落ち着いた感じの林でした。

林の中央10×10mの直立樹木の種類、幹周、主な木の樹高を調べました。クヌギ6本、コナラ5本、イロハモミジ1本など落葉広葉樹がほとんどでした。次に林床植物の調査では、在来種ばかりで、草本植物ではアマドコロ、クズ、ハエドクソウなど25種、木本植物ではアズマネザサ、スイカズラなど31種ありました。下草が管理されているので直立樹木を除いた木本植物、草本植物の背丈は20cm前後でした。そして、今は春の植物相から夏秋の植物相への過渡期で、花も実もほとんどありませんでした。それでも渡辺代表や先輩方は葉や茎を見ただけで植物名が分かり、名を教えてくださいました。半ば落葉に埋もれた葉緑素のない牛久市版RDB 絶滅危惧ⅡB 類の腐生植物のギンリョウソウ(写真①)を見ることができました。

細い道を隔てて日当たりの良い畑地の縁や道端には外来植物がたくさん生育していました。

【6月17日(土)】

井ノ岡町六十塚の「市民の木No.45 ヤマザクラ」前の耕作放棄地の草刈り管理地約0.2ha の細長い場所を調査しました。

春先は可憐な花を咲かせる植物が多かったのですが、6月に入るとイネ科植物が目立ってきました。在来植物はアオカモジグサ、



①ギンリョウソウ(猪子町の雑木林 平成29年6月11日 戸塚)

スギナなど19種、史前帰化植物^{注)}はチガヤ、ヨモギなど12種、そして外来植物はイヌムギ、セイタカアワダチソウ、ネズミムギ、ハルガヤ、ヒメジョオン(あたくも花畑のように大繁茂)など24種と圧倒的に多かったです。日当たりが良く攪乱された土地に外来種が入り込み易いのがよく分かりました。

帰りに国道408号から牛久クリーンセンターへの通路の桜並木道の法面に生育している外来樹のイタチハギとトウコマツナギを観察して帰りました。

注)有史以前にイネやムギなどの作物と一緒に渡来したと考えられている植物。

【6月24日(土)】柏田町の小野川沿い排水路及び田んぼの畔や農道の植物を観察しました。

水辺の在来植物はイヌスギナ、ウキヤガラ、クサヨシ、ヒメガマなどがあり、史前帰化植物はアキノウナギツカミ、外来植物はアメリカセンダングサ、ミズカンナ(写真②)などが生育していました。草刈管理の田んぼの土手や畦道では、在来植物はアオカモジグサ、イヌスギナなど22種、史前帰化植物はツユクサ、メヒシバなど8種、外来植物はセイタカアワダチソウ、マメゲンバナズナなど15種観察できました。

青田が広がる一方、休耕田も目立ちました。一面カズノコグサだったり、水を張った休耕田では蛇口付近に特定外来生物指定のオオフサモがありました。休耕田を見て私は残念な気持ちになりました。大昔の先祖が、イネ科植物の中からイネが穀物になることを発見し、日本に渡ってからは長い歴史と大変な努力の元、現在、旨い米が作られるようになりました。米離れ、生産者の高齢化など問題点はありますが、日本人の体質も考慮し、もっと日本の食文化に我々が誇りを持つべきだと思います。



②ミズカンナ(柏田町の排水路 平成29年6月24日 渡辺)